



「もうすぐ〇年生」を合言葉に

令和8年がスタートしました。保護者及び地域の皆様には、本年も子供たちが生き生きと学び、たくましく成長していけるよう、引き続き、お力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年最終登校日と令和8年初日には集会を実施し、表彰伝達の時間を確保しました。スポーツ面、芸術面ともに活躍する児童がたくさんいることは、うれしい限りです。

令和8年は午年です。午年は「活力」「行動力」「前進」「情熱」等を象徴していると言われ、エネルギーを感じさせられる年です。1, 2, 3月を過ごす際に、子供たちの心のエネルギーとなるのが「もうすぐ〇年生」という意識です。春にはいよいよ進級・進学を控えています。子供たちには、学習面でも生活面でも「もうすぐ〇年生」を意識しながら、どんな自分になりたいかという目標をもたせ、さらに具体的にどうすれば実現に近づくか考えさせていきたいと思っています。各御家庭でも、3月末のお子さんの姿を話し合いながら、御支援くださるようお願いいたします。

さて学校の方では、5年生は、クラブ・委員会活動、縦割り班活動等におけるリーダーの仕事を少しずつ6年生からバトンを引き継ぎます。4年生は委員会活動の説明を受けたり、3年生はクラブ見学を体験したりします。2年生は初めてのクラス替えを経験することになり、入学から2年間ともに頑張ってきた仲間との別れを経験します。学校の中で一番末っ子だった1年生は、新1年生を迎える心の準備が始まります。年明けは、学年のまとめと同時に、進級・進学への準備期間でもあります。それぞれに「もうすぐ〇年生」ということを意識させることで、これまでの学習や生活をしっかりまとめ、次年度に向けた目標や期待感を高めさせていきたいと思っています。そのような中で、どの学年にも共通して支援していくべきことは、児童期に必要なとされる「周りの人たちに関心をもつこと」「周囲と積極的にかかわりあうこと」だと思います。

一方で、進級・進学はどの子にとっても『環境が変化する』ことになります。人は、先が想像しづらいと不安になるもの。そんな不安を丁寧に受け止めるは、我々大人の役目だと考えます。明るい展望のもと、適切に支援していきたいものです。「初め有らざるなし よく終わり有る鮮(すくな)し」/詩経の一説より



校長先生、あのね……

令和7年の話題です。12月25日(木)の表彰伝達とともに、私にも少しお話する時間をいただきました。どの子も明るく新年を迎えてほしいと思い、「ルール違反やうそをついてしまって悔やんでいることなどがあつたら校長先生にお話ししてください。誰にも言いません。そうして、新たな気持ちで新年を迎えてください。」と伝えました。早速、休み時間に校長室に話に来てくれた子が、何人かおりました。「ずっとしまっていたのね、話してくれてありがとう。頑張ったね。偉かったよ。お話は、私のお腹の中に入ったから大丈夫だよ。」などと話しながら、ほっとした表情になっていくのが印象的でした。やなぜの子の素直さ、純粹さを改めて感じた次第です。安心して元旦を迎えてくれていたら幸いです。

1月は、いじめゼロ強調月間

御案内のとおり、宇都宮市では、いじめの根絶を目指し、学校・家庭・地域が一体となって「いじめゼロ運動」を推進しています。本校では、5月、9月に引き続き、1月を「いじめゼロ強調月間」とし、重点的に取り組むこととしています。令和7年度いじめゼロスローガン「**築瀬の輪 やさしい心 届けよう**」のもと、いじめゼロリボン(イエローリボン)の着用により、いじめゼロ意識の更なる高揚を図ります。今後とも「いじめは、いつでも、だれにでも起こりうる」との認識のもと、いじめのない環境づくり、風通しのよい学級づくり、そして適切な対応に努めてまいります。また、今回も「やさしさ貯金箱」を設置しました。やさしさは必ず伝播すると信じ、取り組んでいきたいと思ひます。学校ホームページのリンク集には、文部科学省監修の「ともだち・かかわりづくりプログラム」動画や、「いじめのない環境づくり」に関する情報を提供しています。この機会に、御家庭でも話題にいただければ幸いです。

年の初めに考える

これまで学校ホームページでも発信してきましたが、雨の日の朝は昇降口で子供たちに挨拶をしながら、「傘の水気を切って、きれいにまとめてから傘立てに入れましょう。」と声掛けをしてきました。もちろん、言われる前に傘をまとめている子もいます。「あつ、そうだった。」という子もいます。春から機会を重ねるにつれて、多くの子が言われなくても身に付いてきます。担任の先生が出てきて、「傘の先をそつと下に向けてから水気を切るのですよ。」と支援する姿も見られるようになってきました。傘立てに番号を貼って、きれいに揃う手立てを考える学年も出てきました。ありがたい限りです。

靴箱に靴を置く際には、「かかとを揃えてお願いします。」と声を掛けるようにしてきました。外から校内に入る際に、ひと呼吸おいて自分の靴を揃えることは、「動」から「静」への切り替えに繋がります。靴を揃えるのにかかる時間は数秒ですが、そのひと手間を無駄とか、面倒くさいという一言で片づけてしまうのはもったいないと思ひます。傘を整えたり靴を揃えたりできるようになると、周囲にも注意を払えるようになり、気配りもできるようになります。また、丁寧に生活しようという気持ちも芽生えてきます。小さな事かもしれませんが、やがて習慣として身に付けば、一生の宝物になると思ひます。我々大人が子供たちに贈れる大切なものは、「お金」や「値段が高い物」よりも、小さい頃に「よい習慣」「美しい言葉遣いや所作」「礼儀」を身に付けさせてあげるほうが、価値があると思ひます。

教育の目的は『人格の完成』です。行動は習慣となり、習慣はやがて人格の形成へと繋がります。とするならば、「よい習慣」を身に付けることは「よい人格の形成」へと繋がっていきます。お金では買えない習慣というものは子供たちのこれからの人生の支えとなっていくと考えます。

かくいう私は、まだまだ未熟者です。教育の目的は、人の一生をかけて追い求めるものかもしれません……。

